

# 第6学年2組 外国語科学習指導案

令和4年11月24日(木) 5校時  
男子 9名 女子10名 計19名  
指導者 HRT: 佐仲 健太  
ALT: Christina Higgins

## 1 単元名 Unit6 Let's think about our food.

## 2 単元の目標

- 食材を通じた世界のつながりを考え、メニューを発表する語句や表現を身に付けている。活字体の大文字・小文字を理解し、例を参考に発表したい文を書き写すことができる。【知識及び技能】
- 食材を通じた世界の繋がりを考え、メニューを発表する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、発表することができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 他者に配慮しながら、主体的に食材を通じて世界のつながりを考え、メニューを発表しようとする。英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

## 3 単元について

### ○単元観

本単元は、日頃の食生活を題材とし、食材を通じた世界のつながりや食べ物の栄養素などについて、伝え合ったり話し合ったりする表現ができるようにする単元である。日頃、自分たちが食べている食材やその栄養素、産地などに目を向けながら学習することで、題材を自分事としてとらえやすく、自分の食生活について様々な視点で目的と相手意識をもちながら、意欲的にコミュニケーションを図ることができる価値ある単元である。また、食べ物と自分たちのつながりや、食べ物を通じた日本と世界とのつながりについても、考えを広げたり深めたりすることもできる単元でもある。

児童はこれまで、自分のプロフィールや宝物、自身の夏休みの思い出について、紹介し合う学習を行ってきた。また、自身がおすすめしたい国や地球に暮らす生き物について、紹介し合う学習も行ってきたことから、これまで学習してきたことを生かし、本単元の食生活という自分自身の身近な生活においても、世界とのつながりを実感しながら学ぶことができる構成となっている。

### ○児童観

外国語学習に関する本学級の児童の実態は、下記の通りである。(単位:人)

	思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
①外国語の学習は好きですか。	8	9	1	1
②外国語を話すことは得意ですか。	1	3	12	3
③外国語は大切だと思いますか。	13	5	1	0

本学級の児童は外国語の学習に対して、「好きであるが、得意ではない」という児童が多いととらえることができる。以前から、正しく発音したり正確に伝えたりできることが「得意である」ととらえている児童が多く、これまでの学習の中でも、友達との会話のやり取りや発表の活動になると消極的になる児童が多く見られ、依然としてその実態を克服できていないことは明らかである。

一方、「英語を学習する理由」については、「将来の役に立つから」、「外国に行ってみたくから」な

ど、これからの自分の生活に必要であると感じている児童が多い。また、「外国の人と話したいから」という答えも多く、外国の人とコミュニケーションをとるために必要だと考えている児童も多い。

以上のことから、本単元の学習では、既習の英語表現や新出の英語表現に慣れ親しむことを十分に行いながら、自分の思いや考えを何とかして伝えようとすることに重きを置き、学習を進めていく。

## ○指導観

指導に当たっては、まず、HRTとALTのデモンストレーションをもとに、『家族で食べたい！新しい「〇〇家オリジナルカレー」を考え、紹介し合おう！』という単元のゴールを示し、児童に見通しをもたせるとともに、目的意識や学習意欲を高める。

単元前半では、ALTやデジタル教科書の発音や各種ゲーム等をもとに、食べたものや日頃食べているものを伝える表現や食べ物の言い方に十分に慣れ親しませ、児童が自信をもって発音できるようにする。また、食べ物の産地や栄養素についても表現できるように、タブレットを用いて調べたり家庭科の学習を想起させたりしながら学習を進めていく。

第5時では、自分のオリジナルカレーを考え、「オリジナルカレーのスライド資料」を作成する。その際、家族への思いをしっかりとめ、スーパーのチラシ等も活用しながら、よりオリジナリティのあるカレーを考えていくことで、自分らしい表現ができるようにしていく。

本時では、自分が考えたオリジナルカレーを紹介し合うことを **Main Activity** とし、話す時や聞く時のポイントを示しながら、目的や状況に応じて自分なりに表現できるようにしていく。また、発表を聞く際には、お互いのオリジナルカレーの良さを認め合うことを視点として、栄養素や色どり、家族への思いにも注目するよう指導する。

単元終末では、外国から来る食べ物について、自給率や地産地消等の視点から日本や世界の食糧事情についても知ることができるようにしていく。

また、単元を通して、テーマを明確にした **Small talk** を繰り返し行いながら、既習事項を用いて自分らしく、何とかして自分の考えや思いを伝える資質や能力、意欲を高めていきたい。そうすることで、児童の実態や課題に応じた、本校高学年の研究のテーマに迫る学習ができると確信する。

## 〔言語活動の設定〕

家族が喜ぶ食事を考えるために（目的）、自分が考えた「オリジナルカレー」を紹介し合い（場面）、お互いのオリジナルカレーの良さ（栄養素や色どり、家族への思いなど）を認め合う（状況）ことで、目的意識や相手意識をもちながら、自分の思いを生き生きと伝え合う児童の育成につながると考える。

## 4 取り扱う言語材料

【表現】 What did you eat for ~? I ate ~. I usually eat ~. ○○ is from … .

○○ is in … group.

【語彙】 食べ物 (rice、salad など)、食事 (breakfast など)、食材 (pork、beef など)、果物・野菜 (broccoli、grapes など)

(既習事項も含めて、児童が使いたい表現や語彙を扱う。)

## 5 単元計画（全8時間） 本時 6 / 8

時	目標と主な学習活動	知識・技能	思考・判断 表現	主体的に学習に 取り組む態度
1 ・ 2	食べたものやそれらの産地についてのやり取りのおおよその内容を理解する。	◎		
3 ・ 4	自分たちの食生活について伝え合う。	○	○	
5 ・ 6	オリジナルカレーのスライドをもとに、自分が考えたオリジナルカレーを発表する。 【本時】		◎	○
7 ・ 8	外国から来る食べ物などについて考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。			◎

**単元のゴール…家族で食べたい！新しい「〇〇家オリジナルカレー」を考え、紹介し合おう。**

## 6 本時の学習（6 / 8）

### （1）目標

自分が考えた「オリジナルカレー」について、その特長がわかるように伝え合うことができる。

【思考・判断・表現】

### （2）本時の視点

自分が考えた「オリジナルカレー」を紹介し合うという場面を設定し、そのおすすめポイント（特長）が伝わるように紹介することを意識させながら活動することで、児童が目的や状況に応じて表現を工夫してコミュニケーションをとることができたか検証する。

### （3）展開

過程	児童の活動	教師のかかわり・指導上の留意点		備考
時間	学習活動	HRT	ALT	
Warm up  ⑩	1 <b>Greeting</b> ○あいさつをする。 気分、天気、曜日、日付などを答える。	○天気や曜日、日付について、テンポよくあいさつできるよう進める。	○児童とあいさつを交わし、気分、天気、曜日、日付、時刻を尋ねる。	
	2 <b>Let's chant</b> ○Are you hungry?を歌う。	○児童が意欲的に活動できるよう励ましながら、一緒に発音する。	○児童が意欲的に活動できるよう励ましながら、一緒に発音する。	
	3 <b>Small talk</b> ○ペアで昨夜食べたものについて話す。	○反応したり質問したりして、会話をつなげさせる。	○会話が続かないペアをサポートする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>Q : What did you eat last night?    A : I ate ~</b> </div>				

Main act 1	4 Today's goal ○本時の課題をつかむ。	○単元のゴールを確認し、 本時の課題を児童につ かませる。		
	<b>Today's Goal</b> 自分が考えた「オリジナルカレー」をおすすめポイントがわかるように紹介しよう。			
Main act 2	5 Activity① <Interview game> ○デモンストレーションを 聞き、見通しをもつ。	○ALT とともにデモンスト レーションを行い、児童 に見通しをもたせる。	○HRT とともにデモンスト レーションを行い、児童 に見通しをもたせる。	視点 P C
	<b>★POINT・・・Clear voice, Reaction</b>			
	<b>A : Hello!</b> <b>B : Hello!</b> <b>A : Where is the ○○ from?</b> <b>B : ○○ is from □□.</b> <b>A : I see. (It's nice. Very far!など)</b>		① お互いのオリジナルカレーのス ライドを見て、その食材の産地や値 段について尋ね合う。 ② AとBを交代して、1回ずつ質問 側と解答側を行う。	
6 Activity② <Presentation> ○デモンストレーションを 聞き、見通しをもつ。 ○グループになり、自分の オリジナルカレーを紹介 する。	○一緒にゲームに入って 活動する。 ○Point を意識して活動し ている児童を紹介する。  ○ALT とともにデモンスト レーションを行い、児童 に見通しをもたせる。 ○発表する側と聞く側の Point を示す。 ○Activity①をもとに、児 童の意見を拾い、新しい コミュニケーションポ イントを教える。	○一緒にゲームに入って 活動する。  ○HRT とともにデモンスト レーションを行い、児童 に見通しをもたせる。  ○Looks delicious!や <b>I want to try(eat)!</b> の発 音を担当する。	視点 P C	
<b>★POINT・・・[発表者] Gesture, Clear voice [聞き手] Reaction</b>				
<b>This is my original curry!</b> <b>Onions and carrots and eggplants</b> <b>are in the green group.</b> <b>All vegetables are from Shimabara.</b> <b>My curry is Shimabara curry!</b>		① 自分のスライドをもとに、オリジ ナルカレーについて紹介させる。 ② 栄養素のグループや産地などを紹 介するとともに、特長がわかるよう に工夫させる。		

Main act 1

⑩

Main act 2

⑪

Looking back	<p>○全体で発表する。 (2～3名)</p> <p>7 <b>Looking back</b> ○本時の学習の振り返りをする。</p> <p>8 <b>Good-bye</b> ○終わりのあいさつをする。</p>	<p>○聞き手はおすすめポイントが何だったか、話し手に伝える。(日本語でもよい。)</p> <p>○振り返りシートに書かせ、発表させる。</p> <p>○次時の活動を伝え、本時の授業の終わりをつたえる。</p>	<p>○活動中は机間指導で助言する。</p> <p>○児童の頑張りを称賛する。</p> <p>○授業を通しての児童の頑張りを称賛する。</p> <p>○一緒にあいさつをする。</p>	振り返りシート
	⑦			

(4) 評価

自分が考えた「オリジナルカレー」を紹介し合うという場面を設定し、そのおすすめポイントが伝わるように紹介することを意識させながら活動することで、児童が目的や状況に応じて表現を工夫してコミュニケーションをとることができたかを、行動観察や振り返りカードで評価する。

【思考・判断・表現】

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">Unit goal</div> <b>家族で食べたい！新しい「〇〇家オリジナルカレー」を考えよう！</b>		
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">Today's Goal</div> 自分が考えた「オリジナルカレー」をおすすめポイントがわかるように紹介しよう。	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">Activity①</div> 産地 (from)、栄養素  [POINT] Clear voice, Reaction	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">「おすすめポイント」がわかるように</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">Activity②</div> 1 発表(話し手) 2 おすすめポイント(聞き手)  [POINT] [発表者] Gesture, Clear voice [聞き手] Reaction
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">Small Talk</div> 昨日の夕食で食べたもの	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> 食材等の絵カード	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> Reaction の絵カード

## 7 授業考察

### (1) 授業の視点

自分が考えた「オリジナルカレー」を紹介し合うという場面を設定し、そのおすすめポイント（特長）が伝わるように紹介することを意識させながら活動することで、児童が目的や状況に応じて表現を工夫してコミュニケーションをとることができたか検証する。

### (2) 授業研究より

- これまでの学習の積み重ねにより、既習事項を活用して、どうにかして英語で伝えようとする児童や生き生きと自分が言いたいことを表現している児童の姿が見られた。
- 導入部分のHRTとALTのデモンストレーションにより、本時の学習や **Main act** への見通しをもつことができた。
- 「オリジナルカレーを考える」という単元のゴールを設定することで、どんな食材を入れるか思考を働かせながら考えたことで、様々な食材の英単語や産地を伝える英語表現などを多く話すことができた。
- **Activity** の度にリアクションポイントを示したり、新たなリアクションの表現を提示したりすることで、自然にリアクションしたり、お互いに教え合いながらリアクションしたりするなど、リアクションをするという意識が高まった。
- タブレットを活用したことで、発表児童も聞く児童も、表現内容がわかりやすく、英文を見なくてもタブレット上に示した絵や単語をもとに話したり聞いたりでき、多くの英語表現に触れることができた。

△ 「おすすめポイント」の設定が曖昧で難しかったために、自分の「おすすめポイント」をどのような表現で伝えたらよいかわからず、つまずいていた児童がいた。

- ・ 産地や値段、健康面など条件を示してしぼらせてもよかったのではないかな。
- ・ 「オリジナルカレー」を考えるときに自分のカレーのテーマを設定させ、それを単元を通して意識し、学習していく手立てが必要。

△ ALTの活躍が少なかった。

- ・ 単元のゴールを「家族に」ではなく、「ALTに」とするとよいのではないかな。
- ・ ALTのオリジナルカレーを紹介する場面を取り入れる。

△ **is** や **are** の使い分け、**the** を付けるか付けないかなど、正しい英語表現をどこまで求めるか。

### (3) 今後の課題

- 単元の内容と合致しているか、児童が表現できる内容になっているかなどをよく考え、単元のゴールを適切に設定する。
- ALT主体の **Activity** を設定したり、**Activity** 自体をALTに考えてもらったりするなど。ALTの効果的な活用を図る。
- 「話すこと」の内容において、「やり取り」であるか「発表」であるかなどを明確にして授業を構想する。
- 思考を伴う言語活動を行うために、練習のしすぎにならないようにする必要があるが、ある程度の練習は必要であることも踏まえて授業を構想する。